事例No.	1579
公表年度	R3
団体の属性	都道府県
団体名	和歌山県

事例区分	地域活性化

タグ	・副業・兼業活用 ・移住定住 ・関係人口

事例種類	副業・兼業活用

事例内容・タイトル

副業兼業人材活用支援

出典

地域づくり人材の養成に関する調査研究会資料1　事例調査結果（最終報告）

【地方自治体②】和歌山県、南紀白浜エアポート（副業・兼業人材活用支援）

【事業名】副業兼業人材活用支援

【実施主体】和歌山県、わかやま産業振興財団、南紀白浜エアポート

【実施経緯】

和歌山県は、大学が少なく、また卒業生も東京、大阪などの都市部に出てしまいUターンも見込めない。そういった中で企画、経営面のスキルを持った人材が不足。 一方、働き方も近年大きく変化し、副業・兼業を是認する風潮もでてきた。従前から実施していた内閣府の「プロフェッショナル人材戦略拠点事業（以下、「人材拠点事業」という。）」においても、正規職員だけでなく副業・兼業でも活用することが可能となり、その後押しもあって事業着手に至った。

【準備状況】

本事業実施にあたっての、経済界、金融機関との連携は、人材拠点事業において設置した協議会が機能した。さらに実際の準備段階においては、空港型地方創生を目指す(株)南紀白浜エアポートの協力の下で、事業を実施。

【実施状況、事業レビュー等】

大きくは「人材ニーズの掘り起こし」、「マッチング支援機関への情報提供」、「補助金による支援」の3つのカテゴリーの支援を行っている。特段のモニタリングは行っていない。しかしながら、説明責任の観点から計画と実績の乖離状況などの分析は行っている。

また伴走支援として、県では活用企業に対し、旅費の補助を行っている。それ以上の関与は県としては難しいと思うが、各市町村に移住専属相談員の「ワンストップパーソン」がいる。そういった各市町村の協力も得て支援できればと考えている。

事業実施に当たっては、(株)南紀白浜エアポートの協力が欠かせない。同社では首都圏からのアクセスの良さを前面に出し、様々な地域おこし策に取り組んでもらっている。この副業・兼業人材事業についても積極的に取り組んでもらっている。

【副業・兼業人材の地域との関わり】

令和4年度より移住定住施策の強化を図ることとしている。先ほどの各市町村の「ワンストップパーソン」とも連携して、地域と副業・兼業人材を結び付けていく取組やフォローアップにより関係人口形成につなげていきたい。また、和歌山県には、地域住民や先輩移住者で構成される「受入協議会」もある。そういったリソースも活用し、地域に入りやすい環境を形成していきたい。

【今後の展望】

地域経済の活性化を図るため、副業・兼業の件数をどんどん増やしていきたい。そのためには、需要の掘り起こしが大事で、経営者にわかりやすく事業の説明を行っていく。加えて、どの地域もそうであるかもしれないが、外からの者に対して殻を閉じてしまう傾向がある。そのような環境もこういった取組をどんどんと進めることで変えていければと期待している。

【外部からの支援】

本事業の半分は国の事業費で成り立っている。このような継続的な支援とともに、地域の外から来る者に対する発想を転換させる取組も本事業を実施するうえでは期待をしたい。